第４回新たなおおさか農政検討部会　議事概要

日　　時　令和４年１月１９日（水）　１４：００～１６：００

場　　所　咲洲庁舎４１階　共用会議室８

出席委員　増田部会長、中筋委員、髙井委員、西辻委員、山口沙弥佳委員、山口力委員

内容

**１　事務局説明**

●　第３回部会での主なご意見

●　「次期おおさか農政アクションプラン」素案

**２　委員の主なご意見**

●大阪農業の現状について

　○「農業経営の現状」（本編５ページ）で出てくる「高収益」は、単位面積当たりの収穫高が高いというイメージで書いてある。その結果、あたかも高収益型農業に力を入れてきたかのように見えるが、産地として育成ができてこなかったという面もあるのではと思うので、「高収益」の意味合いをほかのところと合わせたほうがいい。  
何をもって収益性が向上するか、その定義まで組み込んでいただきたい。

〇既存農業者の競争力を高めるという視点で何ができるかを足してみては。様々な産地との競争のなかで、競争力がないと長続きしない。

〇いろんなことが動くビジネスの中で、ロジスティクス面が大きな課題になってきたと思う。行政のほうで物流システムの構築に介入し、競争力をより保っていく視点を入れてみては。また、包装資材の簡略化を図っていくべき。

〇ブドウの仕入れの際、折りたたみコンテナの片道レンタルを利用しており、返送経費やコンテナの洗浄手間の削減をしている。市場にこのレンタルシステムやステーションがあれば、もっと物流面のコストダウンができるのでは。

　●取り組む施策（力強い大阪農業の実現）について

○生産に対しての強化支援アプローチがスマート農業だと書いているが、この5年で、農業資材の購入や機材の購入（共同化）が課題となる気配がある。

書きぶりだけでもいいので、共同の堆肥場を作る、堆肥化を地域で取り組むといったことを盛り込んでもいいのでは。

○農家としては、基幹的な取組について色々と取り組んでいただいていることをありがたいと思っており、そういったことも大切にしていることがもう少し分かった方が良いかと思う。

○トップランナー（意欲の高い農業者）や担い手の育成に関しては手厚い感じが読めるが、今まで地道にやってこられ、産地形成をされている一般の農家についてのサポートについてもう少し分かるようにした方が良いと思う。

○もう少し一般の農家をサポートしている感が見えるようにした方が良いのでは。自給農家から販売農家へ転換していくところの支援について見えるといいかと思う。ボトムアップの議論をもう少し評価してほしいとの話も出ている。

〇産出額の増加を着実にしていく中で、（経営費の中身を）農家に調査してほしい。原価を計算にするにあたり、資材費や生産コストがあがり利幅が減っているのを感じる。現場での府職員の情報収集のスキルアップを見てほしい。

〇農地を守っていくこと・産業としてしっかり攻めていくことの両方をしていくには、規模拡大しようとすればするほど、法律や制度上の課題・制限が出てくる。そのあたりの現状把握をし、必要な緩和策を作るなどして取り組んでいただきたい。

●取り組む施策（豊かな食や農に接する機会の充実）について

○タイトルの副題「農を通じた脱炭素社会への貢献」とあるが、これ自体をメインテーマにしていいのでは。取り組む施策1は、農家が強い農業をしていく、万博を見据えた機能性・魅力を盛り込むものについて、取り組む施策2では、脱炭素は今後必要なフレーズだと思うので、環境にやさしい農業を目指す。取り組む施策3で、全体的なライフスタイル・府民に対しての農のあり方というようにすると、分かりやすくカテゴリ化できるのでは。

〇企業の連携について入れてみては。ソーラーパネルとか、野菜の袋がいらなくなるような新しい製品など、脱炭素社会に向けた企業との連携に取り組んでいきます、といった内容を入れるのもいいと思う。

〇食と農というキーワードで、食育・教育の観点でどう結び付けていくかも模索していただきたい。農業者支援は非常に重要なところだが、側面的に、食と農の学びの機会がある＝学校で学ぶだけでなく、リタイアされていく方へ生涯学習の機会を提供すると農に対する理解度の深まりが出てくる。大阪公立大学が新たにできるが、研究開発や技術革新でも、農だけでなく工学といった分野でも連携が必要かと思う。  
最終的に、ものごとを進めるには予算がどうかとなると思う。ぜひ各自治体を引っ張っていけるような支援を府がすると、農にかかわる人を増やすことができると思う。

●取り組む施策（農業・農空間を活かした新たな価値創造）について

　○５年後目標の「農に関わる人」がどう定義しているのか分かりにくい。農家の戸数、準農家の数、市民農園を借りている、農空間保全活動に参画している、大阪産を買っているのがどれぐらいあって、という具体的な数値が見えている方が良いのでは。学校給食で地場産を食べている小学生がどれくらいいるかの積み上げもいいと思う。

〇地域の100万人について、継続的に取り組んでくれる人が100万人。年3回くらい来てもらうか、カフェに来たついでに農作業してもらう、駐車場の空きスペースを畑に活用するなど？と思う。農地法では、農地に加工所は立てられるがお店は立てられないといった決まりがあるが、新しいことに取り組むためには、農地法のサポートをしてもらえる相談先があるとよいのでは。

●素案全体について

　　○非常に分かりやすく、市民の方も納得してもらえる内容と思う。

○全体的な形が見えるようになっているので良い。

○取り組む施策について、５年後目標の数値が力強い大阪農業以外は現状の数字が記載されていないので、現状の数値からどのぐらい増えるのかが分かりにくい。

●増田部会長まとめ

〇基礎的な農家に対し、支援しているリーディングしていることをみえるような形で「1力強い大阪農業の実現」を強化。

〇ブランディング・競争力・収益性の視点をどう考えておくのか。

〇ロジスティック（サプライチェーン含む）や食育についての強化が漏れていないか。

〇「３農業・農空間を活かした新たな価値創造」の目標１００万人を、府民が理解できるような形で盛り込めばいいのでは。

〇「推進にあたって」は大阪の持つ企業力・教育力・研究力を生かして展開していくことの見える化。

〇「２豊かな食や農に接する機会の充実」の立ち位置が悩ましいが、生産者と府民のライフスタイルをつなげるといった形で、２の立場の整理・見える化をしておく。

**３　部会後の対応**

●　増田部会長より、本日の議論を踏まえたプラン（案）の修正については部会長に一任頂き、部会長と事務局で調整した上でパブリックコメントを行う旨の提案があり、出席委員全員が賛成した。